

模擬講義・レポート

※1 この「出題の意図・評価ポイント」についての質問、照会には一切回答しません。

※2 配点率は入試問題に記載してあります。

【出題の意図・評価ポイント】

模擬講義では、自然科学的観点と社会経済的観点の両方が関わる社会問題とそれへの対応の例として、新型コロナ流行の第1波（2020年1月～5月）に対する日本政府の対応を取り上げ、最後に「境界と監視のテクノロジー（科学技術）」（瀬戸口明久）という科学論の考えを参照して、この状況をより一般的な観点からとらえ直した。自然科学的知見、政策決定の具体的プロセス、抽象的な科学論といった内容を正確に理解した上で、よりよい問題解決を考える、という能動的な学修を行うための基本的資質を測ることを目的とした。

1.

講義資料や講義の中から、重要な情報を探し出し的確にメモをする力を測った。

2.

「クラスター対策」という、感染拡大のメカニズムについての科学的知見に基づいて立てられた感染対策の方法とそれが効果的である理由について、図と口頭での説明に基づいて適切に把握できる理解力、および、理解した内容を的確に説明する表現力を測った。見つかった感染者の過去の行動を調べてクラスター感染の場を発見し、その場にいた人を隔離することで、「見えない」クラスター感染の連鎖が生じるのを防ぐ、という点を押さえているかどうかポイントとなる。

3.

科学リテラシーの基礎として、グラフの読み取り問題を出題した。講義内での説明を応用しつつ、グラフの内容を正確かつ具体的に読み取り、論述にまとめる力、そして読み取りと実効再生産数の概念を用いて結論を導き出す初歩的な思考力を測った。

4.

講義で説明した新興感染症への対処をはじめとする、「境界と監視の科学技術」を用いた問題解決について、その性質と課題を明確に理解すること、またその上で、当事者の立場から、問題解決の具体的なあり方について、目的と手段の関係を意識しながら説明することを求めた。これにより、社会問題について、抽象的な考えを利用しつつ現実的に思考・判断し、かつその思考を表現する力を測った。